

# 地震防災マニュアル

- ① 防災の心得
- ② 優先順次の確認
- ③ サロンにおけるの有効的な避難
- 4 役割を決めましょう
- 5 安否確認の方法
- ⑥ 防災訓練の実施



## ① 防災の心得

避難勧告や避難指示を受けた住民が実際に避難するかどうかは、個人の危機意識による  
ところが大きい。避難しない理由として、「大丈夫」「津波は来ない」「前にもあった」  
などと判断したという。数億年の地球の歴史の中のほんの数十年の自分が生きた年数  
においての経験から判断してしまうは危険に他ならないと思いませんか。

一人ひとりがこれから発生する災害をイメージし、行動の判断材料になるような細かな  
情報とその伝達方法を検討し、整備していく必要があるのではないかと考えます。

それにはハザードマップの周知や、その地域の過去の災害を学ぶことなど、日頃から  
災害をイメージする訓練が必要である。自分の住むあるいは職場の地域、のリスクを予  
測情報から判断し、自ら行動することが減災の理想です。

安全に避難できたらデマ、ウワサ、チェーンメールなどが出回ります。防災意識を高めて  
おくことで冷静に正確な情報と判断力を高めていくことが大切です。

## ② 優先順位の確認

### 1 緊急地震情報を正確に得る

大型ショッピングモールなどは館内放送に従いましょう

館内放送が無いサロンにおいては緊急地震速報を受信できる携帯電話を営業中も所持することは、その後の安否確認にも役立つでしょう。

### 2 身を守る

けが人がいる場合は応急処置または救援を求めます

### 3 消火の確認

ボイラー周辺に燃えやすいものを置かないようにしておくこと

消火器の設置をしましょう

初期消火が被害を最小に食い止めます。

### 4 一時避難

電柱などの倒壊に気をつけて安全な場所に避難し点呼をとります

### 5 物を守る

安全を確認したら荷物を持ち帰り、施錠、分電版、ガス栓を切る

### 6 津波から逃げる

高い建物、丘などあらかじめ避難場所を決めておきましょう。

### 7 安否確認

### ③ サロンにおける有効な避難

サロンにおいては机など身を隠すものが少ない、ガラス面、鏡面などの「われもの」も多く落下物から身を守りましょう。一番大切なことは安全に慌てず避難誘導することです。避難リーダーの「動け！！」

の合図で一斉に行動しましょう。

#### 1 シャンプー台での施術中

早めにタオルで頭を包み、体を起こして逃げられる体勢を作ります

#### 2 セット台での施術中

正対する鏡面からずらすこと、ガラスの破片から守るためクロスで顔や頭を包みます。

#### 3 シャンデリアなど頭上からの落下物付近を避ける

#### 4 幼児は抱きかかえて一緒に避難しましょう

大人の表情、声からも敏感になっています。にこやかに「大丈夫だよ！」の一声を掛けてください。

#### 5 避難する際、持てるだけのタオルを所持しましょう

火災の時に濡らして口にあてがったり、止血に役立ちます。



#### ④ 役割を決めましょう

サロンの営業に関するミーティングと同じように防災に関するミーティングも開催して連携をとりましょう。

名 前

誘導リーダー \_\_\_\_\_

サブ \_\_\_\_\_

消火 \_\_\_\_\_

金庫・施錠 \_\_\_\_\_

分電盤・ガス栓 \_\_\_\_\_

点呼 \_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

バックヤードに掲示しましょう



## 5 安否確認の方法

下記に記した方法もありますが、職場外での安否はSNSやサロンのブログにも迅速に対応できます。ご家族への報告を最優先し、サロンの仲間にも知らせる手段として決めておくこともお勧めします。

電話番号やURLなど	電話番号やURLなど	利用方法など
NTT ドコモ	パソコンや他社携帯電話からも可 (英語版) (一部スマートフォンも可)	<u>設定方法</u>
KDDI	パソコンや他社携帯電話からも可 (一部スマートフォンも可)	<u>利用方法</u>
ソフトバンクモバイル	パソコンや他社携帯電話からも可	<u>ご利用方法</u>
ウィルコムモバイル	ウィルコム端末から   他社携帯電話やパソコンから	<u>ご利用・設定方法</u>
イーモバイル	パソコンや他社携帯電話からも可	<u>利用方法</u>
NTT東日本	171・web171提供速報	<u>利用方法</u> (PDFファイル)
NTT西日本	災害用伝言ダイヤル	<u>録音方法</u>   <u>再生方法</u>



## ⑥ 避難訓練の実施

住んでいる地域、職場の地域特性を調べ、いざという時に備えます。あらかじめ役割分担を決めたら次は避難訓練です。

区市町村など自治体が主催する訓練の参加も良いでしょう。

サロンで行う場合は役割の連携の確認を前提に行います。

9月1日 防災の日・・・東海地震を想定して実施されます

12月第一日曜日・・・地域防災の日

7月（1～10日）の定めた日・・・津波避難訓練

<http://www.e-quakes.pref.shizuoka.jp/data/toukei/jishubou/>